令和７年度

「大学生と集落の協働による地域活性化事業」

福島県二本松市岩代地域

業務実施報告書

宮城大学　宮﨑っ子

目　次

１．はじめに

２．岩代地域について

３．今年度の活動内容

４．調査によって分かったこと

５．今後の課題

６．課題解決のために

７．最後に

８．参考文献

９．参加学生名簿

１．はじめに

私たち「宮﨑っ子」は、宮城大学の宮﨑研究室に所属する学生８名と指導教員１名で構成されている。全員が地域創生学類に所属し、地域課題の解決および地域活性化に関する専門的な学修を行っている。その過程の講義やフィールドワークを通して、地域住民との協働の重要性や、現場に根差した実践の必要性について理解を深めてきた。

ゼミの活動としては、地域の方々の交流の場を創出することを基礎とし、それぞれの興味関心に沿った地域プロジェクトを立案・実践している。実際に地域へ足を運び、現地の方々との対話を重ねながら、地域に対する想いや将来への希望の声に耳を傾け、その実情や課題を多角的に捉える姿勢を培ってきた。具体的には、宮城県富谷市成田地区を対象とした「nari-mori プロジェクト」において芋煮会や縁日を開催し、地域住民と学生との交流の場を形成するとともに、地域住民同士の交流の機会創出にも取り組んでいる。さらに、大学近隣地域でのイベント出店などを通して、積極的に地域へ出向き、地域の声に触れる機会を自ら創出している。

以上の学びと実践を踏まえ、これまで培ってきた交流創出の経験を、より広い地域課題の解決へと発展させたいと考えた。特に、少子高齢化が進行している福島県においては、持続可能なまちづくりに向け、多様な主体が関わり視点を共有することが不可欠であると認識している。そして、地域に対する想いや将来への希望の声に耳を傾ける中で、集落が抱える課題の本質を捉え、その持続的な発展に貢献したいと考える。加えて、ゼミメンバーの中には福島県出身者も在籍しており、当事者性をもって集落が抱える課題に向き合うことに大きな意義を見出している。このように、大学での理論的な学修と現場での実践を結びつけながら、当事者意識をもって継続的に地域に関わりたいと考え、本プロジェクトへの参加を決めた。

２．岩代地域について

福島県二本松市岩代地区は、二本松市の南東部に位置する中山間地域であり、東西に細長く中央部がくびれたひょうたん状の地形となっている。東部は阿武隈山地に属し、標高 1,000 メートル前後の山々が連なる山岳地帯で、その斜面は牧場として利用されている。中部は山麓地形、西部は丘陵地形が広がり、狭い谷筋に沿って集落

や畑、棚田が点在し、周囲の大半を山林が占めている。北に羽山、東に日山を有する自然豊かな環境のもと、標高 897 メートルの羽山は古くから地域の象徴的存在となっており、その山麓ではりんご栽培が盛んで、「羽山りんご」のブランド名で多様な品種が生産されている。

岩代地区は旧岩代町の区域を中心とする地域であり、2005 年に旧二本松市・旧安達町・旧東和町との合併により新生二本松市の一部となった。人口は 5,436 人、世帯数は 2,164 世帯（令和 7 年 3 月 1 日現在）である。

地区は地形や文化の異なる三つのエリアから構成される。旧城下町として栄えた小浜は歴史・文化・祭礼などの伝統が色濃く残り、旧町中心地であったことから公共施設も集積している。地区中央に位置する新殿は「合戦場のしだれ桜」や「杉沢の大杉」などの銘木群を有し、「道の駅さくらの郷」も立地する観光拠点である。日山麓に広がる旭はキャンプ場やパークゴルフ場などのレジャー施設が整備された自然豊かなエリアである。気候は内陸性で寒暖差が大きく、真夏日が県内でも比較的多い一方、真冬日は少ないが冷え込みは厳しい。年間降水量は県内でも少ない地域の一つである。

図 1（上） 二本松市岩代地域地図

近年は地域の魅力発信にも取り組んでおり、岩代観光協会が 2023 年に発行した PR 冊子『岩代おじさん図鑑』は、地域の観光や文化を支える中高年男性約 20 名を「岩代おじさん」として紹介したものである。私たちが連携をとっている中山自治会の斎藤隆博さんも岩代おじさんとして掲載されている。インパクトのある写真やゲーム攻略本風の構成が話題を呼び、メディアでも多数取り上げられるなどの大きな反響を得た。

図 2（上） Web 版「岩代おじさん図鑑」表紙

３．今年度の活動内容

今年度の活動では、来年度の本格的な施策の実施に向けて二度の現地訪問を行った。

●3-1.初回訪問（9 月 25、26 日）

主な行程として、初日は郷土史家である日下部先生から旭地区の歴史について伺い、トマト農家である門馬さんのビニールハウスと畑の見学を行った。夜には、地元の秘湯である名目津温泉を利用し、自治会や地域の方々との交流を行った。翌日は斎藤リンゴ園の視察と、二本松市立旭小学校の見学、日山パークゴルフ場、日山キ

ャンプ場を訪問した。

25 日は初めに、地域の歴史や概要を把握するために、もと小学校校長で郷土史家の日下部善己先生から旭地区の歴史についてお話を拝聴し、旭地区の歴史や養蚕を含めた地域の産業について学ぶことで現代に繋がる知見や知識を得ることができた。

日下部先生からお話を伺った後は、トマト農家の門馬さんのもとを訪問した。トマトや肥育牛の飼育などの農業を営む上での悩みや岩代地域におけるこれまでの農業形態の変化、現在の農家の動向について伺った。

26 日は初めに斎藤リンゴ園を訪問し、地元の特産品である「羽山りんご」の生育や農家の生活についてお話を伺った。さらに、園内の様子だけでなく、リンゴの受粉に必要な花粉を散布するために使うドローンを実際に操縦している様子を見学させていただいた。

図３（左）門馬さんにお話を伺っている様子

図４（右）斎藤リンゴ園見学の様子

斎藤リンゴ園訪問の後は旭小学校を訪れた。今回の訪問では、主に各クラスの授業を見学した。旭小学校は全校生徒が 10 名で、複数学年の混合学級で授業が行われていた。校長先生は小学生と大学生の交流に意欲的であり、次回の訪問において指針となる貴重な機会となった。

最後に日山パークゴルフ場と日山キャンプ場を訪れた。パークゴルフの体験や日山キャンプ場の施設の見学など、自然豊かな環境にあるレジャー施設の存在についても知ることができた。

地理的知識や地元の産業についての理解を深めた上で、岩代地域の人・食べ物・自然といった資源を、身をもって学ぶことができた。

●3-2.2 回目の訪問（1 月 9、10 日）

今回の主な行程は、初日に二本松市立旭小学校と二本松市立岩代中学校を訪問し、生徒たちとの交流を行った。翌日は道の駅「さく

らの郷」にてそば打ち体験を行った後、ネギ農家であるてんまる農園を訪問した。

9日は初めに旭小学校を訪問した。2度目となる今回は小学生と一緒に給食を食べた後、ミニゲームを行った。前回の訪問ではなかなか生徒たちと交流する時間はなかったが、今回は給食の時間を共有することで気軽な対話の機会を増やし、地域の小学生の生活の実態を知ることができた。ミニゲームでは岩代地域の良いところ（自慢したいこと）をお題として、より多く書き出せたチームが勝利という形式で行った。小学生、大学生共に楽しみながらゲームを行い、私たちはこれまで知らなかった岩代地域の神事や食べ物、自然について学ぶことができた。

その後、岩代中学校を訪問した。岩代中学校ではグループ内で岩代地域の誇りや好きなところをヒアリングし、それを踏まえた岩代地域をよくするためにできることを協同して考え、発表するというグループワークを行った。中学生ならではの視点や地域をよくしたいという姿勢に多くのことを学んだ。

図５（左）小学校でのミニゲームの様子

図６（右）中学校でのグループワークの様子

10 日は初めに、道の駅さくらの郷でそば打ち体験を行った。実際にお店でそばを提供されている先生に指導していただき、二八そばと十割そばの両方を実食し、岩代地域の特産品を体験することができた。自分で打った出来立てのそばはより美味しく感じ、多くの人に体験してほしいと思った。

最後にてんまる農園を訪問した。てんまる農園は私たちと同世代の農家さんが営んでおり、作物の見学だけでなく岩代地域で農業に励む思いや今後の展望、若者の農業参入の現状について伺うことができた。地域に対する思いや農業でより良くしようとする熱意を感じ、非常に刺激を受けた。

図７（上）そば打ち体験の様子

図８（下）てんまる農園見学の様子

幅広い年代の地域住民と意見交換、交流することで新たな発見や地域理解が深まり、来年度の方向性を定めるうえで有益な訪問となった。

４．調査によって得られた知見

岩代地域を訪問し、地域住民へのヒアリングおよび現地視察を通して得られた知見は、主に以下の三点である。

(1)少子高齢化について

岩代地域では人口減少および高齢化が進行しており、地域活動の担い手が限られているという課題がある。自治会活動や行事運営を支える中心世代が固定化しており、将来的な継続性に不安を感じているという声も聞かれた。一方で、住民同士の関係性は非常に良好であり、日常的な助け合いや交流が自然に行われている点が特徴的であった。外部からは「閉鎖的」と見られる可能性もあるが、実際には外部から来た私たちを温かく受け入れてくださった。

また、小学生や中学生との交流を通して、子どもたちの地域に対する愛着の高さも確認できた。「岩代の魅力をもっと広めたい」「将来も地域に関わりたい」といった前向きな意見が多く、若い世代にも地域への誇りが根付いていることが分かった。人口は減少しているものの、地域への思いや次世代の可能性は確実に存在しているという点が重要な知見である。

(2)地域の魅力発信について

岩代地域には多様で魅力的な地域資源が存在している。農産物では羽山りんごが知られており、品質の高さから地域の代表的な特産品となっている。また、観光資源としては、道の駅さくらの郷、合戦場のしだれ桜、杉沢の大杉などがあり、自然や歴史を感じられるスポットが点在している。

しかし、これらの資源が地域外へ十分に発信されているとは言い難い状況である。住民からも「良いものはあるが、外に伝える機会や方法が少ない」という意見が挙がった。個々の資源は魅力的であるにもかかわらず、それらが体系的に結び付けられ、地域全体のブランドとして発信されていない点が課題である。今後は、既存資源の再評価と情報発信手法の強化が必要であると考えられる。

(3)小学校について

統合後の小学校の活用方針については、地域として明確な方向性が定まっておらず、今後の利活用方法を模索している段階にある。地域住民の間でも、「交流拠点として活用したい」「地域活動の場にできないか」といった多様な意見が存在しているものの、具体的な計画には至っていないのが現状である。

一方で、小中学生との意見交換を通して、子どもたちが主体的に地域の未来を考えている姿が見られた。施設活用の議論と、将来の担い手育成を結び付けることで、単なる空間活用にとどまらない地域づくりにつながる可能性があると考えられる。

以上のことから、岩代地域は少子高齢化という課題を抱えつつも、強い地域内の結束、豊富な地域資源、そして地域に愛着を持つ次世代の存在という大きな可能性を有していることが明らかになった。

５．今後の課題

今年度の活動を通して明らかになった課題は、「地域の魅力が地域外へ十分に発信されていないこと」と、「地域の将来を見据えた持続的な体制づくりが十分に整っていないこと」である。現地での聞き取りや活動を通して、岩代地区には豊かな自然環境や農作物、温かい人間関係、独自の文化など多様な地域資源が存在していることが分かった。しかし、それらは十分に整理・発信されているとは言い難く、地域外にその価値が伝わっていない現状がある。このこ

とは、交流人口や関係人口の拡大を妨げる要因の一つとなっていると考えられる。

また、統合後の小学校の活用方針が明確でないことや、公共交通の利便性の低さなど、生活面での課題も見受けられた。さらに、人口減少に伴い地域活動の担い手が限られている点も、地域の持続性に関わる重要な課題である。

これらを踏まえ、弊グループでは地域の魅力を可視化し効果的に発信するとともに、将来の担い手を育む取組を通して地域への愛着や誇りを醸成することを目標に活動していく。

６．課題解決のために

本プロジェクトでは、地域資源を活かした情報発信と、将来の担い手育成の両面から課題解決に取り組みたいと考える。まず、SNS（Instagram・YouTube）を活用し、地域の自然や文化、暮らしの様子、地域の人々の活動などを継続的に発信する。また「岩代おじさん図鑑」との連携を通して地域で暮らす人々に焦点を当てた発信も行い、地域内外の人がより岩代地域に親しみを持てるような情報提供を目指す。

さらに、旭小学校・岩代中学校と協働し、子どもたちが地域の魅力を発見し発信する活動や、地域をより良くするためのアイデアを形にする取組を支援する。これにより子どもたちの地域への愛着を育むとともに、将来的に地域を支える人材の育成につなげていく。これらの活動を短期的な取組で終わらせるのではなく、地域と大学生、学校が継続して関わる仕組みとして定着させることで、持続的な地域活性化につなげていくことを目標とする。

７．最後に

これまでの活動を通して様々な人と関わってきた。人口は少ないものの住民の方それぞれが岩代地域の魅力を理解しており、「地域をより良くしたい」「魅力を知ってほしい」という思いがあることが分かった。各々で実際に行動に移している方も多い。また、地域の大人だけでなく、小中学生との交流を通して地域に対する思いや意見を聞くことができたことはとても貴重な機会だと感じた。今後は地域で行われるイベントへの参加や現地活動を通して継続的に地域に関わりつつ、形として残すためプロジェクト実行に進んでい

く。また、具体的な活動形態については中山自治会さんと話し合い、オンラインなどを活用しながら活動を推進していきたい。

８．参考文献

・「岩代おじさん図鑑」

https://iwashiro-ojisan.studio.site/

・岩代観光協会　岩代の歴史

https://evergreen-net.jp/introduce/%E5%B2%A9%E4%BB%A3%E3%81%AE%E3%81%8F%E3%81%AB%E3%80%81%E5%B2%A9%E4%BB%A3%E3%81%AE%E6%AD%B4%E5%8F%B2/

９．参加学生名簿

氏名	学類	出身地
川村菜々美	地域創生	福島県田村市
蝦名咲空	地域創生	福島県いわき市
荒川大聖	地域創生	山形県新庄市
加藤水織	地域創生	栃木県宇都宮市
草島野乃子	地域創生	山形県鶴岡市
小西有花	地域創生	宮城県仙台市
駒井理子	地域創生	岩手県盛岡市
佐藤亜美	地域創生	宮城県仙台市